

日本賢人会議所

第2号

特集：日本の人口はどこまで減るのか？



一社）日本賢人会議所

東京都港区芝浦2-14-13加瀬ビル161:6階

TEL:03-6809-4950

FAX:03-6809-4951

nippon@kenjinkaigisho.com



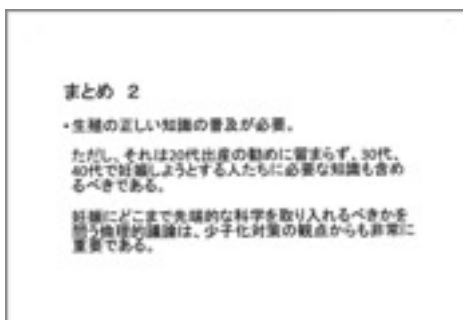
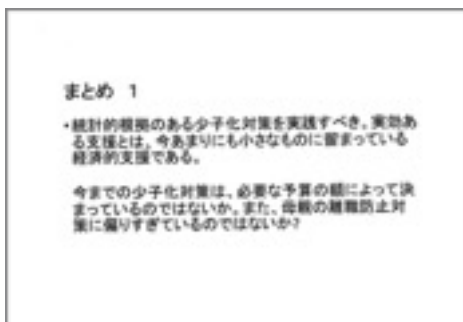
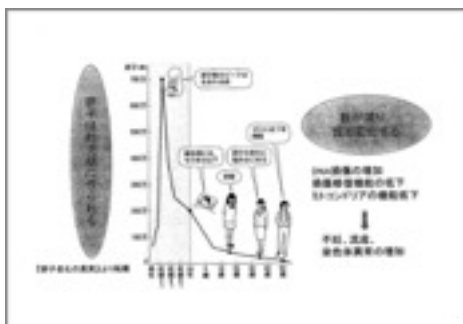
月曜セミナーの開催

日本賢人会議所の活動の一つに「月曜セミナー」があります。ここでは、いま話題になっているあるいは社会問題となっている事柄について、その道の専門家の方をお招きしてお話を伺い、それをきっかけに広く社会に情報を共有していくことを目指しています。

今回は、「少子化」テーマにして、

平成27年4月15日には『卵子老化と少子化対策』、5月25日には『移民定住による多子化問題』そして7月23日には『少子化歯止めの秘策を考える』と題して3回にわたってセミナーが開催されましたので、その内容について、特集として紹介します。

平成27年4月15日:第2回定例セミナー 『卵子老化と少子化対策』



第2回の河合蘭氏のスライドより



第2回は多子化政策提言委員会との連携で、出産ジャーナリスト河合蘭氏をお迎えし、卵子の全ては胎児期に約700万個作られ、誕生時には約半数となり、それ以降も減り続け、質も変化するととのショッキングなお話と共に、若い年齢からの出産の必要性を学校教育で教えるべきであり、特に30

代、40代出産への正しい知識の普及、さらに若い夫婦に対する経済的支援の必要性など示唆に富んだお話を頂きました。

平成27年5月25日:第3回定例セミナー 『移民定住による多子化問題』

第2回に続き、多子化政策提言委員会との連携で、移民政策研究所所長坂中英徳氏をお迎えし積極的に移民を受入れ、国籍比率もバランスよく定住を進めるべきとの提言をお聞きました。



(1)日本の未来は人口統計で決まる

(2)第一次産業の瓦解を救う起死回生策——移民政策

(3)地方が必要とする外国人材は移民

(4)日本版奴隷制度から日本型移民国家制度へ

(5)移民を渴望する地方の声を政治家にぶつけよう

(6)国内人口移動から国際人口移動へ

(7)2015年を移民政策大論争の決着をつける年にしよう

少子化歯止めの 秘策を考える

2015・7・23
産経新聞社 論説委員
河合雅司



日本人は「絶滅危惧種」

- 200年後 1391万人
- 300年後 423万人
- 西暦2900年 4000人
- 西暦3000年 1000人
- 静かなる有事

当面は女性と高齢者に期待

- ①少子化対策には時間かかる
- ②出生数増えても「労働力」となるまで20年

↓

■労働力不足対策へ 政府の「三本の矢」

- 1) 女性の活躍促進
- 2) 高齢者雇用の推進
- 3) 外国人労働者の受け入れ拡大

第3子以降に「1000万」支援

- ◎8割は第2子希望 75%「第2子の壁」
- ◎子供への費用 第2子は8割 3子は6割

第3子以降増えれば、人口減少止まらず

- 補償 ①第三子の教育費(学習塾代も)無料
- ②20代の出産への傾斜配分
- ③第1子、2子の児童手当を廃止・縮小

平成27年7月23日:第4回定例セミナー 『少子化歯止めの秘策を考える』



第4回は、多子化政策提言委員会との連携で、産経新聞論説委員の河合雅司氏をお迎えし、これまでのような子育て支援ではなく本格的な少子化対策が必要であり、そのためには当面は女性と高齢者に期待しながら、第3子以降に特別な支援をするなどの秘策が有効であるとのお話を伺いました。



月曜セミナーの活動



第4回の河合蘭氏のスライドより

事業企画推進委員会より

8月に行われた委員会で、日本賢人会議所の主たる活動目的は【少子高齢化対策】【生涯現役】である事を再確認しました。今後の日本が活力をもって発展していけることを会員の共通認識とし、賢人会議所の活動はこの目的に沿って進めて行くこととしました。

進行・推進中のプロジェクト

1.多子化推進プロジェクト

- ① 佐伯氏による検討を始め、河合蘭、坂中、河合雅司各氏の講演会を実施。9月28日 NPO 法人長崎の風 増田泰之氏の講演を予定。
- ② 今秋ないし年内を目途に表題に関する「提言」を取り纏め、政府等に提出する。
- ③ 提言の取りまとめに当たっては、正副会長会議等の議論を経て、佐伯氏に原案の作成を依頼し、会員の意見を聴く。
- ④ 提言には、「子宝率」の高い企業を「ESG」投資の要素に取り込む（手法等については会員専門家の意見を聴く）有期雇用契約者も育児休業が取得できるようにする、また休業後の復職が保証されるようにする、採用における年齢制限を撤廃する、男も一定期間の育児休業を取るように義務付ける、などを盛り込むことを検討する。
- ⑤ （子宝率の高い企業を表彰する）婚活（おせっかい仲人の復活）、結婚生活の良さを普及する、子育ての楽しさを教育する。
- ⑥ 出生率上位の石垣島では、「働く母はなぜ3人の子供を産めるのか」が話題になっていますが、現地に滞在する渡辺理事が中心となって、食と住まいに関する具体的な調査を行い会議所としての提言をまとめる。

2.ロイヤルエイジ健康プロジェクト（仮称：125歳健康倶楽部プロジェクト）

- ① 名称は再考する。健康寿命の延びの結果が長寿であることを確認。
- ② 昨11月4日認知症予防の為の食事と講演。白

澤卓二順天堂大学教授

- ③8月17日「老年よ大志を抱け」福生吉裕日本末病システム学会理事長
- ④日本補完代替医療学会 理事長鈴木信孝金沢大学等との連携を行う。
- ⑤他団体との連携を行う。健康寿命はライフプランの一環として若いころからの取り組みが肝要であり、学生団体との連携などを検討。
- ⑥長野美根理事主催の料理教室開催の検討。

3.その他

- ①古事記のオペラ化公演、その他コンサート、ゴルフのコンペ、バスの旅などはチャリティ目的で行うことを含め実施の検討をしてはどうか。
- ②「講師派遣」の斡旋、会員の経歴の取りまとめと本人の承諾を得たうえでの事業開始を検討する。宣伝対象、税務処理などについて検討。
- ③各プロジェクトにはそれぞれ事務担当者を置くことが必要。

9月・月曜セミナーのご案内

日時：9月28日（月）17：00～19：00

平戸市を【ふるさと納税日本一】にした仕掛け人増田泰之氏にお話しいただきます。

演題：「ふるさと納税が日本再生・地方再建のカギ」（仮題）

講師：増田泰之税理士法人増田会計事務所代表

場所：青山オーバルビル15階（渋谷区神宮前5-52-2）のセミナールーム

青山オーバルビルは、東京メトロ「表参道」駅B2出口から徒歩3分。青山学院大学の前、国連大学の隣です。

会費：千円

お申込みは、日本賢人会議所事務局（03-6809-4950 nippon@kenjinkaigisho.com）まで。

